

2022年度事業自己評価公開シート

相愛幼稚園
園長 大城厚子
(公印省略)

1. 本年の教育目標

- ①神さまとの出会いを通して、神さまから命をあたえられたかけがえのない存在として、愛され守られている事を知り、喜び感謝する心を養う。
- ②いろいろな人との関わりの中で、お互いの違いに気づき、認め合い、共感し、協力する楽しさを味わい、共に生きる力を培う。
- ③遊びを中心とした生活を通して、子どもの自主性・主体性を育み、心身の調和のとれた発達と個性の伸長をはかる。
- ④神さまの創られた豊かな自然や「子どもの園」としての幼稚園の中で「いのち」と触れ合い、多様な自然の不思議さ、素晴らしさに感動し、「いのち」をいとおしむ心を育てる。
- ⑤地球家族の一員として、人と自然との調和や世界の平和に目を向け、なにをなすべきかを共に考え、祈り、行動できる力を育む。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ①新型コロナウイルス感染症の減少により、社会的に感染対策が緩和される中で、感染防止対策を取りながら、通常保育ができるよう保育の在り方を探る。
- ②「認定こども園」への移行準備を進めていく。
- ③コロナ禍の為、園児が減少、利用定員を60名にし、少人数保育でより丁寧な保育を目指す。
- ④「子どもの園」としての園庭環境を充実させる。
- ⑤キリスト教保育について学びを深める。
- ⑥配慮を必要とする子ども達の理解を深め、適切な支援のあり方について学ぶ。
- ⑦SDGsを意識した保育を大切にする。
- ⑧職員の処遇改善
- ⑨経費削減を心がける。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
幼稚園の教育課程の編成実施に関して教職員間の共通理解をはかる。	<p>①魅力ある私学の学校づくりの推進のため教育の質のを向上を図る学校支援事業を利用し教育保育の充実を図る。</p> <p>イ 伝統文化に関する教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の伝統的な衣装や楽器、音楽に親しむ ・焼き物工房を見学したり窯を使って焼き物をする(年長)(コロナの為中止) ・観劇を通し文化的な表現活動を楽しむ <p>ロ 食育(野菜の植え付け・クッキング・食育に関する学び)</p> <p>ハ キャリア教育(消防署・壺屋工房見学)</p> <p>ニ 体験活動(芋ほり遠足等)</p> <p>ホ 運動する意欲や能力を高める教育(体育あそび)</p> <p>へ 国際感覚を身に付ける教育(多文化交流)</p> <p>ト 安全の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CAPの学び・AED設置・安全点検の実施 <p>②教育課程に関しては、学期末ごとに検証し、改善し保育の質の向上に努めた。</p>

評価項目	取り組み状況
幼稚園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	<p>①建物の老朽化のため、後20年後には、建て替えをしなければならない。そのための資金ををどの様に生み出していくのか理事会・評議員の中で議論していく。</p> <p>②「認定こども園」への移行について話し合い、決議していった</p>
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	<p>①幼児の発達の姿をとらえるための研修を定期的実施し、自由闊達に意見が開示できる環境を作っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的なカンファレンス ・毎月1回のケース検討及び、学び会 <p>②子どもの降園後、日々の子どもの姿について自由に話し合い、お互いの連携を大切にする。</p> <p>③月刊専門誌「キリスト教保育」を毎月学び合う。時には、実践報告などを投稿し全国の仲間と共に学び合い保育の質の向上に努める。</p> <p>④園内研修において全保育者(午前保育・預かり保育担当者)で学び合い、環境整備を行なった。</p> <p>⑤必要に応じて、専門家を交えて研修を行なった。</p> <p>⑥幼稚園教育要領について研修した。</p> <p>⑦幼児の虐待防止について職員で学んだ。</p>
保護者のニーズの把握に努め、適切な対応をはかる。	<p>① 個人面談等を定期的実施するとともに、随時教育相談を行う。</p> <p>② 行事等について毎回連絡ノートに感想や意見を書いてもらう。出された意見に対して、必要なものについては園の考えを示し、話し合いの場をもうけたりする。</p> <p>③年度末には、アンケートを実施し、意見や感想に対して応答したものを全保護者、及び関係者に公表し、お互いの理解を深め、保育の質の向上に努めた。</p>

4、学校評価の具体的な目標や計画の教育効果

学校評価を通して園の目指すものがより明らかとなり、子どもたちにとって最善の保育・教育が実践できるよう、様々な点で保育の質を向上させること事ができるようになる。

5、今年度取り組んできた課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	<p>①新型コロナウイルス、感染防止対策する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正門での手指のアルコール消毒 ・毎日、検温し体調管理簿に記入。体調を担当が確認する。 ・手洗い・換気・クラスごとの活動・密を避ける。

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・狭い場所(通園バス・室内活動)でのマスク着用・職員、保護者のマスク着用の徹底。 ・子どもにおいては、強制しない。 ・遊具、よく触る箇所の消毒。 ・空気清浄機で部屋の空気の汚染度を測り、清浄する。 ・食事の時パーテーションを使い感染を防止する。 <p>②通園バスの安全運行の為全職員で情報を共有した。マニュアルを作成し安全確認を、運転手及び、添乗員が確実に言い、置き取りなどが発生しない様体制を整えた。</p> <p>③AEDをレンタルし、常時園に設置した。いつでも使えるように定期的に使用法を確認する。子ども達へ園にAEDが設置されている事、その効果について伝えた。</p> <p>④春と秋の園内研修において全保育者でAEDの使い方、応急処置について再確認した。がじゅまるの会教育講演会においても応急処置についてオンラインで学び合った。</p> <p>⑤園内の遊具や環境の安全確認を丁寧にし、危険な個所が見つかったと直ぐに改善できるものは改善し、予算化しなければできないものについて応急処置をし、時期を見計らい早急に対応できるようにした。</p> <p>⑥学校薬剤師による環境衛生調査の実施し、適切な環境を整えた。 <2022年度の結果> 2023/3/9検査実施 ・飲料水(適合) ・騒音(問題なし) ・照度(適合)</p> <p>⑦全クラス安全点検表を活用しながら安全確認を行う。</p>
特別支援教育	<p>①園の発達アドバイザー(専門家)と連携し、子どもへの適切な関わりについて出来るだけ多くの保育者と学び合う場を作り、充実させる。</p> <p>②インクルーシブ教育(多様な子ども達と共に生き、お互いを尊重し助け合い共に生きる力を育む教育)の質を高める学びをした。</p> <p>③医療、福祉の関係機関との連携を深め、その子より良い育ちの環境を共に作れるよう連携をとった。</p> <p>④保護者も希望があれば専門家と直接お話し出来る機会を作る。実施できた。</p>
保護者との関係性の充実	<p>①学年度末には、保育・教育アンケートを実施し、保護者の園に対する思いを知る事ように努め、保育者との共通認識を深め改善すべき点は改善し保育の質の向上に努めた。</p>

課題	具体的な取り組み方法
保護者との関係性の充実	<p>②子育てに役立つ情報を提供したり、親の学びの時をつくり子育てを支援する。がじゅまるの会（保護者会）がオンライン形式で子育て講演会を3度実施とてもいい学びの時となった。</p> <p>③転勤で来られた方も安心して子育てができるよう保護者同士、子ども同士のつながりが作りやすい環境を整えていく。（コロナ禍で今年度も交流が難しかった。）</p>
環境の整備	<p>①コロナ禍前まで親子で「子どもの園」づくりを実施し、木や花を植えたり、板で花壇の枠を作ったり、水の道を整えたり、椅子や壁を磨き環境を整えたりしていたが、2020年度よりコロナ感染防止の観点から見直す。今年度も実施できなかった。</p> <p>②子どもたちが、虫取り、草花あそび、木登り、どろんこ遊びや木の実を食べたりできる自然豊かな環境作りに努めた。</p> <p>③施設の改修工事及び環境構成を行なった。 <2022年度> 計389,740円</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2階の避難経路になっている通路の扉が南京錠式の鍵になっている為、手動で開閉できるものに取り換える。幼児の手が届かないように扉全体を大きくする。（防火設備点検業者による指導）(150,000 円) 2. ノア組クーラー故障の為、取り換える。 (123,200円) 3. こりす組の扇風機吊り下げ式だとネジが緩みやすく危険。壁掛け式に切り替える。 (47,300円) 4. すみれ組、なかよしルーム扇風機故障の為取り換え(2台)(57, 200円)
職員の処遇改善	<p>・処遇改善Ⅰ・処遇改善Ⅱに引き続き、内閣府からの処遇改善Ⅲ特別給付金を活用し、職員の処遇を改善することができた。</p>